

No.2905

1899～1962 年サモアにおける政治の近代化に対する現地住民の対応

神戸大学大学院国際文化学研究科

博士後期課程

矢野 涼子

本研究の目的は、1899 年から 1962 年にかけて、サモアの現地住民（ネイティヴ・混血・外国人永住者など）が、ドイツ植民地政府（1899-1918）及びニュージーランド統治政府（1919-1961）に対し、いかなる対応を示したかを明らかにすることである。サモアの現地住民によるドイツ植民地政府及びニュージーランド統治政府に対する反応が、顕著にあらわれた出来事としてマウ運動があげられる。本研究では、マウ運動を通じてサモアの現地住民が「近代的な」政府（＝ドイツ植民地政府、ニュージーランド統治政府）に何を訴えたのかを明らかにすることを試みた。

◆ドイツ植民地政府に対するサモアの現地住民の反応

2018 年度には、主にドイツ植民地期に行われたマウ運動関連の史料収集を行った。2018 年 6 月 8 日に外務省外交史料館（東京都港区）にて、史料『在邦各国大使任命雑件（ドイツ）』を、2018 年 6 月 9 日に国立公文書館（東京都千代田区）にて、史料『欧州諸国の殖民政』を収集した。また、2018 年 10 月 16 日～11 月 7 日に、ベルリンのドイツ連邦文書館（Bundesarchiv）にて約 3 週間の史料調査を行い、『ラウアキの計画（Lauaki's Schemes）』等を収集した。

◆ニュージーランド統治政府に対するサモアの現地住民の反応

ニュージーランド統治下で起こったマウ運動の際に、サモアの現地住民が海外地域の政府や諸組織に提出した嘆願書の分析を行った。その結果、マウ運動の主導者やサモアの首長は、マウ運動の際に政治に対して主に批判を行う一方で、女性は村への襲撃に関して主に批判を行っていたことが分かった。また、主導者や女性はイギリス支配下でサモアの秩序が維持されること望んでいたのに対し、サモアの首長は自治と独立を求めている。さらに、貿易商人やハワイに一時滞在しているサモア人が、マウ運動の際に記したパンフレットや嘆願書の分析も行い、マウ運動では立場によって不満の内容や理想とするサモア像に違いがあったことを明らかにした。